

「システム刷新はしない」
「ものを言う組織 課題に」

「書生という認識は、
 今のシステムを根
 づけるものではない
 といふのが、安達、藤
 井、三益の固定観
 念である。藤井、三
 益は、保守・運賃
 チーズに固執して
 居ていて、今、こ
 れを破る意味でのス
 テートの新機軸が、
 構造的な意味では、
 今の質的な水準で
 いるから、第三者
 目から見て、第一
 証し、再仕直し策
 をとる。風化防止
 の仕組みつてをし
 かり」

「書き手は、な
 るべきことを言わ
 ない姿勢と指摘され
 た。坂井、三益、大
 塚は、指図で止めて
 いる。役員全員が
 だろ、どうしては
 ないか、一部を
 理解している。こ
 れをいって、言
 うことと、言われ
 ることとで、いか
 なり能動的に自分
 たちの意を主張し
 ていけるか、組織
 として、これを開
 示する」

「みりそのものを刷新する必要がある。最新鋭のシステムを持ちながら、保守・運用フェーズに入ったなかで十分に必要は。」

次世代型の金融はほぼ
デジタルと考えられ、
高度なセキュリティを要する銀行業務の提供も、
お金の流れと社会向き、
変化に対応し続ける金
融機関にならざるを得ない。ハード・ソフトウェア
を含めてものごとのものに
何か大きな欠陥がある
とは認識しない。――社長の心算の移り
変わりについて、

来世でいうところの「
管理面の質的機構の変
換」ができたか、それが大
きく反省点だ。ソフト、
イノベーションとしての
ものにもならぬ欠陥が
あるといふと認識してい
る。むしろ運用体制に
課題があった。そこを
予断なくしっかり見直して――

――8回の改革を受けた

坂井社長「6月16日に再発防止策を発表したところ、私は反対をいれたいことが實務だと言った。ただ8・9月の事故を踏まえ、顧客や社会の安全を第一、あるいは得てしまったという事実をどうとホルダーに変えて以降、それぞ待ち待た降は、それぞれ待た場た、ますます安心にた

従来園山の家族への思いをわけて、私がかげじめをうけることがのみすほ、これからののみすほとして、一番いいと考え、指名委員会に申し出て了承いただいた。」

「罵れない形で、

は。

——藤原頭取の心境

藤原頭取「最初の事象が起つてから責任の取り方について自問自答を繰り返して、

ずほF Gの坂井社長⑤とみず
取(26日、東京都千代田区)

記者会見するみ
ほ銀行の藤原頭
金、海外対策の重要性が増
す中、重要な責務を担う
金融機関としてこのよう
な事態を引き起こしたこ
とを大変重く受け止めて
いる。我々のプロセスで
重大な瑕疵（かし）があ
ったと認識している」

記者会見するみずほFGの坂井社長(左)とみずほ銀行の藤原頭取(26日、東京都千代田区)